

- Nondestructive Testing III, ed. by R. S. SHARPE (1977), Chap. 2 [Academic Press, London]
- 25) M. G. SILK: Brit. J. Nondestruct. Test. (1979) Jan. p. 12
- 26) 伊達和博, 島田平八, 池永則夫: 非破壊検査, 29 (1980) 9, p. 648
- 27) D. COOK: Proc. Brit. Acoustical Soc. Spring Meeting (1972), 72U19
- 28) 小倉幸夫: 非破壊検査, 28 (1979) 3, p. 182
- 29) 伊達和博, 島田平八, 伊東義晃: 同上, 31 (1982) 4, p. 247
- 30) 小倉幸夫: 同上, 30 (1981) 9, p. 686
- 31) K. DATE, H. SHIMADA, and Y. ITO: Proc. 1982 Joint Conf. on Exp. Mech., Part II (1982), p. 761
- 32) J. H. UNDERWOOD: Exp. Mech. (1978) Sept, p. 350
- 33) 平野一美, 小林英男, 中沢 一: 機械学会講演論文集, 820 (1982) 2, p. 301
- 34) 伊達和博, 島田平八, 松沢秀貢: 同上, 820 (1982) 12, p. 717

統 計

先進国及び主要国の粗鋼生産・製法別構成推移

先進国における粗鋼生産・製法別構成推移は平炉の転炉・電炉への移行であり, さらには電炉比率増の傾向を示す. 国別に見ると, 転炉・電炉化の進展段階で次の3グループに区分できる.

第1グループはもつとも進展の顕著な日本で1970年代前半に転炉・電炉化を完了し, 電炉率増の傾向にある. 現状の電炉率は25%である.

第2グループは10年間に急激に転炉・電炉化し, ほぼ完了段階にあり, 西独, フランス, イギリスが属

する.

第3グループは転炉・電炉への進展が軽微なグループでアメリカ, ソ連が属する. ソ連の平炉率は依然60%である.

一方, 主要国における製法別構成推移は第2・第3グループ型と言える.

イタリア, スペインは第2グループに属し, ポーランドは典型的な第3グループである. 韓国は1973年に転炉が導入され, 急増するのに伴い, 電炉・平炉率が激減する特異な推移を示している.

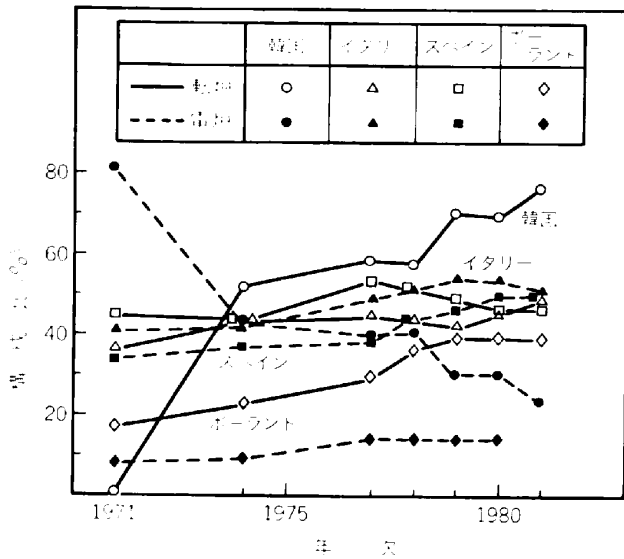


図1 先進国の粗鋼生産・製法別構成推移

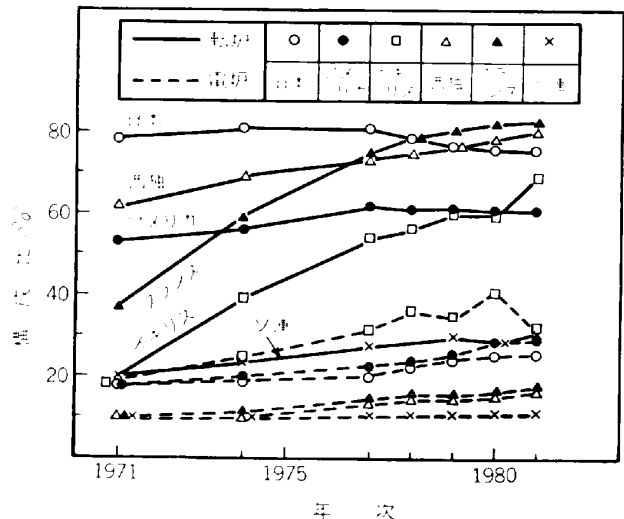


図2 主要国の粗鋼生産・製法別構成推移  
出典: 鉄鋼統計要覧 (1982) 鉄鋼統計委員会 (鉄連)